

2008年

今月の逸品 1

大牟田市立 三池カルタ・歴史資料館

生物始源

江戸中期・36組

来年 2009 年は、進化論を唱えた英国の自然科学者チャールズ・ダーウィンが『種の起源』を発表してから 150 年目にあたります。

この『種の起源』を『生物始源(一名種源論)』の名で日本に初めて紹介・翻訳したのは、大牟田出身の立花銃三郎という学習院の教授を勤めた人です。残念ながら銃三郎はイギリス留学中に、34 歳という若さで亡くなってしまいますが、『格氏普通教育学』、『格氏特殊教育』など教育学に関する著書も残しています。また、彼の死後には有志によって『立花文学士遺稿』が編まれました。



筑後国細見絵図 (部分)

江戸中期(文化期以前)・46x46cm

筑後国のうち三池から松崎宿(現・小郡市松崎)までの往還(主要な交通路)を中心に描いた江戸時代中期の絵図です。

作製された時期は明らかではありませんが、記載内容から推測して三池藩が奥州下手渡(現・福島県伊達市月館町)へ領知替えになる文化3年(1806)以前のものでしょうか。

ただし、実際にはない三池陣屋の天守が描かれていること、地名に当て字・誤字が目立つこと、正式の往還ではない道筋であることなど、作製の目的や地図としての精度はやや不確かですが、古絵図としては絵画的な表現が随所にみられ楽しめるものとなっています。



三十六歌仙歌力ルタ

江戸中期・36組

「三十六歌仙」とは、平安時代中期の公卿で歌人でもあった藤原公任が編集した歌合形式の秀歌撰『三十六人撰』に記載されている36人の代表歌人の総称です。

『古今和歌集』の6倍という数が当時の人々に喜ばれ、平安後期には『中古三十六歌仙』『女房三十六歌仙』などが定められます。

このカルタは三十六歌仙の和歌を左右に分けて組み合わせたもので、流麗な手描きの文字に手彩色で描かれた精緻な歌仙絵が添えられ、裏地には銀無地が施されている豪華な仕立てとなっています。



庭訓往来

(江戸書林青雲堂・高井蘭山講釈)

南北朝・室町時代初頭に作られ、江戸時代には寺子屋で広く使用された初級の教科書です。

正月から12月まで、毎月の往復書状計25通で構成されていて、現在までに40種が確認されています。

内容は、書状の書き方を教えるための模範文例集のほか、武家社会で生きてゆくために必要な知識が網羅されています。



三池港案内

(三井鉱山合名会社発行・1908(明治41)年以降)

今年で開港100年を迎える三池港を紹介した明治時代のパンフレットです。

表は「三池港全図」と題し、港湾施設を中心とした地図が描かれ、港倶楽部・港発電所などの炭鉱関連施設が茶色、貯炭場が黄色、埋築予定地が桃色に塗り分けられています。

裏面には三池港の詳細な解説と写真が添えられていますが、作成年月日は明記されていません。しかし、1911(明治44年)に導入されることになる三池式快速石炭積機(通称:ダングロ・ローダー)の3号機がまだ設置されていないことから、少なくともこれ以前のものであることは推測できます。

